

オペラ表現学ぶなら最適のスタジオ

12月、街はクリスマスに向かい、日ごと華やいている。クリスマスイブに始まる恋物語のオペラといえば、「ラ・ボエーム」。今年の私のクリスマスコンサートの演目だ。おかげさまで、大変盛況のうちに公演を終えた。

1830年頃のパリ、若き芸術家たちを主人公とする青春劇。彼らの若さや夢、希望、愛を情熱的に表現したプッチーニの名作だ。

今回の共演者は、将来の日本を担う若い歌手たち。全員が恵まれた体格と才能を持ち、日本人歌手もついにここまで来た、と感激するほど勤勉で志も高い。

歌手は、生まれつき声が良ければ、後はある程度、勉強をすれば舞台に上がることができるなどと誤解されることを、私は遺憾に思っていた。

歌手としての才能や技術は当



然、秀でているべきだが、読譜、つまり楽譜から作曲家の真意をくみ取るという人間力が不可欠で、その真実を聴衆に届けられたとき、感動が生まれる。歌手とは、指揮者や演出家としての能力も必要とされる。

もし、オペラを表現する真の意味を学びたいならば、お勧めしたいスタジオがある。昨年誕生した「オペラアカデミー イン S. アマデウス」。演出家の鈴木敬介氏の遺志を引き継ぎ、嵯峨子夫人が創設した。スタジオでは、日本を代表する指揮者や演出家、歌手の指導を受けられる。

どの職業でも同じだろうが、何を目指し、どの視点で人生を歩むかで、結果は異なる。人類に本物の歓喜や感動を与えられる歌手が育つことを心から願う。

登場する主人公たちがそれぞれの成功を夢見るボエームも、本当に大切なのは愛である、ということを伝えている。だから、言葉を超え、世界中の人はこの作品に涙する。そんな胸打つ歌を私も歌いたい。

(さとう・しのぶ＝声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

音楽